

ありせむ

人の一生はたゞとて暮らさずして行く人

そのびやうい人教いる

彼女とのあいは 五理学教授の奥子

時だ 教授の自定へ勉強しに行つていた

テーブルをけさす 先生の話をよく せん

やぐすねたことけ 厚い ても呼折 おむ

がふそつて来る

一生懸命まいていゝつてもいゝが奥さまの料理も

口にすると いおむりのつろすたなる

先生の死後 彼女がしげうくお一人だつた

銀座のビル経営 函所婚をした

先生の奥さまの以家は 歯科医師の妻だつた

事故でなくなりその紋 祐福だつたので

十年は累存を 活だつたと話されていた

三度目の夫との生活は ビジネス風とでも

言うのか 朝食をつくると中が仕事

あといけをしつてもいいといふことだつた

しい

たづねることにあつたが 変わった生活だ

